

ようじえんだより 2017年度8月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目 253 番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

8月主題『ゆったりと』

主題聖句：「平和を実現する人々は、幸いである」マタイによる福音書5章9節

☆ 0～2歳児：神様の創られた自然にふれる。いろいろな人と出会って楽しい経験を
する。家族や保育者とゆったりした時間を過ごす。好きな場所で遊びが広がる。

☆ 3～5歳児：平和を考え、願い、共に祈り、平和に過ごす。保育者や友だち、家族
とゆったり過ごす。様々な人や環境に出会い、いろいろなことを経験する。

友人の被爆体験を聞いて

十日町市には「十日町市原水爆禁止協議会(以下:原水禁)」という団体があります。世界で唯一の被爆国にある町として、大量破壊兵器である核兵器の廃絶を訴える団体です。北朝鮮の核の脅威もある中で、「核には核で対抗しよう」という論調もあるこのご時世ですから、この団体の活動理念は理想論と言われそうですが、実は原水禁には十日町市内の政治・経済・業界団体、共産党を除くすべての政党も加盟しています。また宗教団体も仏教界や天理教、立正佼成会、そしてキリスト教も加盟しています。それぞれに政治的立場や考え方は違いますが、「与えられている命を大切にしよう」「大量破壊兵器によって子どもに代表される弱い立場の人たちも一瞬にして殺され、街や環境を破壊することはやめよう」という点において一致している団体です。実はこの団体を立ち上げたのは、十日町幼稚園元園長の松井愛美(まついなるみ)先生です。

松井先生の大学時代の同級生に広島出身の被爆者がいました。彼から原爆の悲惨さを聞いて衝撃を受けた松井先生は、十日町に原水禁を立ち上げたのでした。

他者の痛みを自分の痛みとして

松井先生ご自身も戦争中は大変な苦勞をされたようです。十日町に引越してきたのが1944年(昭和19年)で、十日町にやってきてすぐに学徒動員で、中頸城郡中郷村にあった日本曹達(ソーダ)二本木工場で働きましたが、体調を崩し、1945年(昭和20年)2月1日に十日町に一時帰省しました。しかしその年は未曾有の大雪で、12月20日～翌年4月15日まで飯山線は全線通行止めで、病気の体で越後川口駅から線路の上を歩いて明け方に十日町に帰ってこられたそうです。真っ暗闇の中を遭難しそうになりながら20キロ以上の徒歩は想像を絶します。戦時中を過ごした人たちは、みんなそのような体験を大なり小なりされています。だから友人の苦勞を自分のことのように聞いたのでしょう。

平和の源泉は「相手を思いやる想像力」に思えてなりません。人の痛みや苦しみや悲しみ…。それを自分のことのように考え、涙し、支え合おうとするところに、平和が形作られるのだと思います。

園長：久保田愛策

年間主題『愛されて育つ』

主題聖句：あなたがたは神に愛されている子どもです
新約聖書 エフェソの信徒への手紙 5章1節